



登録商標第5784350号

あなたの会社は何点？  
元銀行マンが教える

# 『 銀行格付け 』完全攻略

～ 決算書・資金繰り表・経営計画書の三位一体で格付けを制す ～

令和7年6月23日(月) 於)東京商工会議所

( 講師 ) 株式会社しのざき総研  
代表取締役 篠崎 啓嗣



# 【 目 次 】

1. 30年間の金融史から読み解けるものとは
2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)
3. 貸借対照表(1つ)と損益計算書(2つ)の勘定科目が格付の肝になる！
4. 代表者の個人BSと個人PLを銀行に開示することで融資が受けられようになる！
5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！
6. 格付けのランクアップをする方法
7. 肝は財務資料の作成



## 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

格付(1998年頃)

リレーシ  
ョンシップバ  
ンキング(  
2003  
年4月)

経営者保  
証に関す  
るガイドラ  
イン(201  
4年2月)

事業性評  
価融資(2  
015年2  
月)

企業価値  
担保権(  
2026  
年4月)



# 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

## < 融資先の格付け(内部格付制度) >

■ 定義：金融機関が融資先の信用リスクを定量・定性の両面から評価し、「格付けランク(1～10など)」を付与することで、貸出金利・貸出条件・与信判断を統一する仕組み。

■ 相関関係：リレーションシップバンキングの進展により、格付けモデルに「定性要素」の比重が高まりつつある(例:経営者の力量、事業の将来性)事業性評価融資が進むことで「定量的な赤字」でも「格付け上は評価される」ケースが出てきた。

■ 近年の変化：格付けの“財務スコア偏重”からの脱却、モニタリング重視へ(継続的フォローを前提とした格付更新)。

■ 2019年12月で制度廃止となるが、殆どの金融機関は継続してこの手法を採用している。



## 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

### < リレーションシップバンキング(関係性金融) >

■ 定義と目的：リレーションシップバンキングとは、金融機関が財務諸表などの定量情報だけでなく、企業の定性的情報(事業内容、経営者の資質、地域との関係性など)を踏まえた長期的視点での取引を重視する金融手法です。

■ 歴史的背景：2000年代初頭に地銀・信金などが主導し、地域密着型金融の中核概念として定着。2003年以降の「地域金融機関によるリレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」により政策的に推進。

■ 特徴担保や保証に依存せず、事業継続性・将来性を重視経営改善支援・伴走型支援との親和性が高い中小企業との「長期的信頼関係」に基づく融資を基本とする。



# 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

## < 経営者保証に関するガイドライン(2014年～) >

■ 主旨：中小企業の資金調達において「経営者個人保証」が過度に求められることを是正し、法人と個人の分離を進めるガイドライン。

■ 要件(保証不要の3要素)：財務の健全性(法人・個人の明確な分離)返済可能な資金計画経営の透明性と適切な情報開示。

■ 相関性リレーションシップバンキングの深化 → 経営者保証なしでも信用供与できる関係構築格付け制度との連動 → 無保証融資は高格付け企業に集中しがちだが、定性的評価の強化で裾野が広がる今後の「企業価値担保権」とも補完的に機能する可能性あり。



# 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

## < 事業性評価融資(2015年～本格導入) >

■ 定義：財務諸表に現れない企業の「事業の質」「競争力」「地域貢献」などの定性面を中心に評価して融資を行う手法。

■ 主な評価項目：ビジネスモデルの独自性市場環境と将来性経営者の資質とビジョン社員の定着・人材力地域経済への波及効果。

■ 相関性リレーションシップバンキングの手法と完全一致→格付けの定性化  
→ 事業性評価を組み込む金融機関が増加中→経営者保証ガイドラインとの相互補完 → 経営者の評価向上で無保証が実現しやすくするために 企業価値担保権(2025年導入予定)。



# 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

## < 企業価値担保権(2025年導入予定) >

■ 制度概要：企業の将来収益や暖簾価値・ブランド・技術力・顧客基盤などの無形資産を担保化できる新制度(令和8年4月1日施行予定)。

■ 歴史的背景：金融庁「成長資金供給に関する研究会報告書(2022年)」で議論が開始。ベンチャーや赤字企業が融資を受けにくい現状を改革する制度的試み。

■ 相関性格付け制度の革新に寄与→将来のキャッシュフローを担保に格付けが変動→事業性評価の具体的な制度化→企業の無形資産評価が可視化される→経営者保証不要の代替担保として機能する可能性。



# 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

## < 今後の中小企業融資の方向性 >

### ■ ① 保証・担保偏重からの脱却

経営者個人保証・不動産担保依存から、事業性評価や企業価値担保へ移行。融資審査が「資産担保型」から「将来性評価型」へシフト。

### ■ ② 定性評価の定量化と制度化

技術力・ブランド力・従業員満足度といった“見えにくい価値”をスコア化して融資判断。民間格付会社やAIによる評価ツールの導入が進む。

### ■ ③ プロパー融資の裾野拡大

信用保証協会の補完的役割の見直し(→必要なケースに限定)。  
「赤字でもプロパー融資可」が制度的に可能に(企業価値担保権などにより)。

### ■ ④ 地銀・信金の役割再定義

地域の目利き力がより重視され、金融仲介業から経営支援業へ、リレーション重視の金融機関が評価される時代になる。



## 1. 30年間の金融史から読み解けるものとは

### < 企業の求められるアクション >

項目	アクション
格付向上	財務の法人・個人分離、事業計画の整備
経営者保証撤廃	PL/BS改善だけでなく、事業の説明力を強化
企業価値担保対応	技術、ブランド、人材、顧客基盤などの“見えない資産”の棚卸し
事業性評価対応	経営者インタビュー、社内改善活動、地域貢献を資料化
関係性金融深化	信金・地銀との定期的な情報共有、信頼関係構築



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 融資先のランク付けとは >

自己査定とは、金融機関が適切な貸倒引当金を積むために、金融機関自身で融資先企業の内容を把握し、ランク付けすることです。貸出金その他、有価証券・外国為替・支払承諾も含まれます。





## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 融資先のランク付けとは >

中小企業の社長は銀行の格付けを非常に気にしています。

このランク付けが正常先から要注意先や破綻懸念先にランクダウンした場合は、新規融資が受けづらくなったり、新規融資が受けられなくなる可能性があるからです。

銀行の格付けと言われている自己査定は平成10年以降に導入された制度ですが、銀行が保有する債権(融資)等を査定し、必要な引当金を計上していくことです。

この債権を査定するということは、結局、融資先の企業内容を把握して、一般的に「債務者区分」と呼ばれるランク付けをしていきます。この債務者区分によるランク付けが高い企業は、元利金の支払いが債務不履行となる可能性が低いことから、銀行側は利子を低く設定します。一方で、債務者区分が低い企業に対しては、(今までの取引経緯や企業規模によりますが、)基本的に新規融資はせず、資金の回収行動へ移る可能性があります。

ちなみにこの手法は平成31年12月18日に終了しました。しかし殆どの金融機関はこの商法を継続して融資先の評価をしています。



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 融資先のランク付けとは >

このように、銀行は自己査定という作業を通じて、融資先の債権管理を行っており、この査定結果では、融資企業への貸付方針が変更されていきます。このため、融資を受ける側として、どのような方法によって自社が査定されているのか知っておくことは、銀行担当者と今後の資金繰りを議論する上でも必要な情報です。

なお、この自己査定について、各銀行がマニュアルを制定していますが、その基本となるのが金融庁の公表している『**金融検査マニュアル**』と呼ばれているものです。

一般的に「不良債権」という言葉がありますが、これは要管理先より下の債務者区分が該当します。不良債権に対しては、銀行は資金回収側にまわりますので、新規融資や取引の継続は基本的に考えられません。また、要注意先であっても、特段注意をしながら融資をしていく必要が出てくるので、積極的な新規融資は考えられません。取引は継続していくと思われませんが、将来正常先への回復が期待できるため継続していると考えられるので、正常先に回復せず要注意先のままだと最終的には取引をやめる可能性が出てきます。

企業側として自己査定を理解する大事なポイントは、自社が現在どの債務者区分にいるのか、ということになります。もし、要管理先以下であれば正常先へ復活できるように経営努力が必要になってくるわけです。



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

債務者区分		概 要
正常先		業績が良好であり、かつ財務内容にも特段の問題のないと認められる債務者
要注意先	要注意先	金利減免・棚上げを行っているなど貸出条件に問題のある債務者、元本返済もしくは利息支払いが事実上延滞しているなど、履行状況に問題がある債務者の他、業況が低調ないしは不安定な債務者または、財務内容に問題がある債務者など今後の管理に注意を要する債務者
	要管理先	要注意先の内、3ヶ月以上延滞または貸出条件を緩和している債務者
破綻懸念先		現状、経営破綻の状況にはないが、経営難の状態にあり、経営改善計画の進捗状況が芳しくなく、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者
実質破綻先		法的・形式的な経営破綻の事実が発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しが無い状況にあると認められるなど実質的に経営難に陥っている債務者
破綻先		法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 各債務者区分の具体的イメージ >

＊前頁の債務者区分表では具体的なイメージはできないと思います。以下が財務的な該当要件になります。

#### ( 正常先 )

あくまでもイメージですが、**実質債務超過になっていないこと・繰越損失がないこと・営業利益が2期連続で赤字でないこと、債務償還年数が10年以内で収まっているのであれば、概ね正常先に該当します。**

#### ( 要注意先 )

**要注意先は繰越損失が計上されており、営業利益が2期連続で赤字になっている場合や既存融資の返済を事実上延滞している先。また、債務償還年数が10年以上20年以内の場合は要注意先に該当します。条件変更をしていなければ、信用保証協会付融資であれば、融資取り扱いもされるケースは多いです。**



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 各債務者区分の具体的イメージ >

#### ( 要管理先 )

13頁、債務者区分表の概要と同じです。**条件変更をしている先**は、要管理先に該当するケースが多く、新規融資は受けられなくなる場合が多いです。

#### ( 破綻懸念先 )

2期連続で実質債務超過になっている先。**実質債務超過解消年数が5年以上になる先**。債務償還年数が20年以上になっている先。融資元本及び利息の支払いが6ヶ月以上延滞している先。経営改善計画書の提出をしているが、履行状況が芳しくない(イメージですが80%以内)先になります。

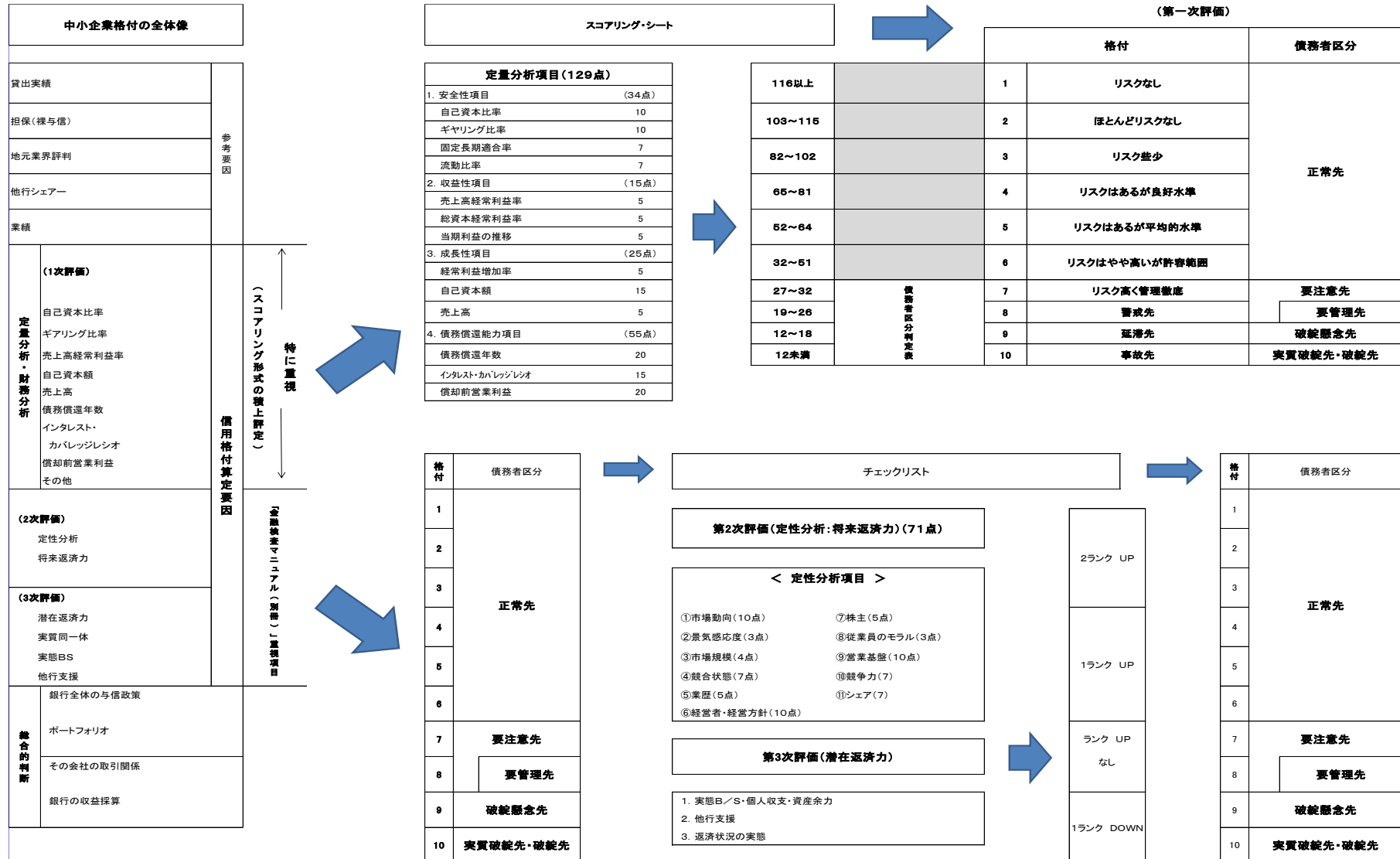
#### ( 実質破綻先・破綻先 )

13頁、債務者区分表と同じです。



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 格付の全体イメージを掴む >





## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

＊一次評価と二次評価のポイントについては別添の資料をもとに御説明させていただきます。

( メモ書用 )



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 三次評価のポイント >

#### 【 代表者の個人収支 】

・銀行は融資先の代表者の役員報酬額と家族構成を確認の上、生活実態をヒヤリングします。

**役員報酬実質手取額** － **年間生活費** ＝ **余剰資金**が出てきた場合は、その余剰資金は会社融資の返済原資として加算します。

#### 【 代表者の資産背景 】

・代表者の資産背景(預貯金・上場企業株式・貯蓄性の高い生命保険の解約返戻金・不動産など)をみなし担保として捉えています。



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 三次評価のポイント >

#### 【 他行支援 】

\* メインバンクを基本とした各金融機関の融資残高の状況変化を観察しています。

\* メイン比率が50%を超えて、サブバンクの数が多くなるとケースによってはメイン寄せをしてくるので注意してください。

\* サブバンクで信用保証協会付融資を利用しすぎるとメインバンクが追加融資をしなくなる可能性があります。



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 三次評価のポイント(返済状況) >

Aは正常先／Bは要注意先／B`は要管理先／Cは破綻懸念先／Dは実質破綻先に該当します。

決算書の状況			借入金の返済状況						
債務 超過	黒字 赤字	繰越 損失	延滞 なし	延滞1ヶ月 以上	延滞2ヶ月 以上	金利減免 条件変更	延滞3ヶ月 以上	延滞6ヶ月 以上	延滞1年 以上
なし	黒字	なし	A	B	B	B`	B`	C	C
なし	黒字	繰損	B	B	B	B`	B`	C	C
なし	赤字	なし	B	B	B	B`	B`	C	D
なし	赤字	繰損	B	B	B	B`	B`	C	D
前期のみ債務超過			B	B	B	C	C	C	D
2期連続債務超過			C	C	C	C	C	D	D



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < ランク付けの5つのポイント >

- ①ランク付けは一次～三次評価までありますが、一次評価が80%を占める。二次評価については、メガバンクはほぼ0%・地方銀行が10%・信用金庫が20%程度採用しているイメージです。
- ②一次評価では点数付けをしますが、貸借対照表の資産勘定科目を精査するので、決算書のお化粧は90%程度、銀行は見抜いています。
- ③一部不動産や投資有価証券・ゴルフ会員権などの含み損益がある資産については、時価評価で修正して実質純資産額を確認します。
- ④債務超過・繰越欠損金に該当している場合は、直近の決算書で税引後当期利益を計上していてもランクアップは厳しくなります。
- ⑤逆に、表面上の営業利益が赤字を計上していたとしても代表者の役員報酬と資産背景を確認して、三次評価で修正評価をしています。



## 2. 銀行の格付の概要を知る(一次～三次評価)

### < 一次評価の財務分析指標 >

NO	項 目	指 標	算 式
1	安全性	自己資本比率	純資産合計額／総資本
2		ギャリング比率	負債合計額／純資産合計額
3		流動比率	流動資産／流動比率
4		固定長期適合率	固定資産／(固定負債＋純資産合計額)
5	収益性	売上高経常利益率	経常利益／売上高
6		総資本経常利益率	経常利益／総資本
7		収益フロー	直近3年間の税引後当期利益の状況
8	成長性	経常利益増加率	(当期経常利益額－前期経常利益額)／前期経常利益額
9		自己資本額	純資産合計額
10		売上高	—
11	返済能力	債務償還年数	(短期長期銀行融資残高－所要運転資金)／(減価償却＋経常利益－法人税等)
12		インタレスト・カバレッジ・レシオ	(営業利益＋受取利息＋受取配当金)／(支払利息＋支払配当金)
13		償却前営業利益	減価償却費＋営業利益



### 3. 貸借対照表(1つ)と損益計算書(2つ)の勘定科目が格付の肝になる！

< **BS** >

	純資産の 部合計

< **PL** >

営業利益

経常利益



### 3. 貸借対照表(1つ)と損益計算書(2つ)の勘定科目が格付の肝になる！

< 財務指標から読み取れること >

重要財務指標は13ありますが、すべて詳細を把握しなくても問題ありません。キーワードは①純資産額合計金額 ②営業利益 ③経常利益の3つです。

【 純資産額に関する項目 】

①自己資本比率

⇒純資産合計金額／総資本

②固定長期適合率

⇒固定資産／(固定負債＋純資産額合計金額)

③ギャリング比率

⇒総負債(流動負債＋固定負債)／純資産合計金額

\* 短期借入金及び長期借入金に含まれる役員借入金は純資産額に加算する

④純資産額(自己資本額)

⇒純資産合計金額



### 3. 貸借対照表(1つ)と損益計算書(2つ)の勘定科目が格付の肝になる！

< 財務指標から読み取れること >

【 営業利益に関する項目 】

⑤インタレスト・カバレッジ・レシオ

⇒(営業利益＋受取利息＋受取配当金)／(支払利息＋支払配当金)

⑥償却前営業利益

⇒減価償却費＋営業利益



### 3. 貸借対照表(1つ)と損益計算書(2つ)の勘定科目が格付の肝になる！

< 財務指標から読みとれること >

【 経常利益に関する項目 】

⑦売上高経常利益率

⇒売上高／経常利益

⑧総資本経常利益率

⇒経常利益／総資本

⑨経常利益増加率

⇒(当期経常利益額－前期経常利益額)／前期経常利益額

⑩債務償還年数

⇒(銀行融資残高合計－所要運転資金)／(減価償却費＋経常利益－法人税等)



### 3. 貸借対照表(1つ)と損益計算書(2つ)の勘定科目が格付の肝になる！

＜ 財務指標から読み取れること ＞

1) 金融機関は**過度な節税が大嫌い**な傾向があります。

2) 自己査定の重要財務指標で高得点になるのは、純資産(自己資本)に関する項目です。

3) 営業利益と経常利益に関する項目が自己査定では点数化されており、2期連続で営業利益及び経常利益を赤字計上すると点数が低くなります。

4) 自己査定では『**貸したお金は返してください**』が基本にあります。つまり、債務償還年数の財務指標が中核になっています。



## 4. 代表者の個人BSと個人PLを銀行に開示することで融資が受けられようになる！

### < この取り組みが唯一無二の差別化となる >

( 会社の貸借対照表 )

不良債権や不良在庫などがある程度あるのか？・代表者に対しての使途不明金はないのか（貸付金・仮払金）	短期借入金
	長期借入金
時価で処分した時に資産余力がどの程度あるのか？	純資産の部 (自社株式)

代表者の資産背景  
は役員報酬と相続  
及び贈与から組成  
されている

連  
帯  
保  
証  
人

( 代表者個人の貸借対照表 )

* 現金	* 住宅ローン
* 預金	* マイカーローン
* 上場株式	* 教育ローン
* 投資信託	* カードローン
* 金	
* 生命保険	
* オフショア	
* 居宅	
* 他、不動産	
* ゴルフ会員権	
* リゾート会員権	
* 自動車	
* 高級時計	
* 自社株式	

純資産の部（自社株式を除外したものが代表者個人の  
実質純資産額：住宅ローンは団信が  
付保されてるので  
資産とみなす）

( 代表者の個人収支 )

役員報酬（手取）【収入】

基本生活費【支出】

教育費【支出】

住居費【支出】

衣類費【支出】

雑費【支出】

【収入】 - 【支出】

⇒ 個人収支（差引余力）

\* 差引余力は営業利益に加算  
できる！

\* 金融機関は個人収支迄詳細  
にヒヤリングしていない！



## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

### < 決算書のBefore／After >

#### 【 自己査定前 】

流動資産350		流動負債280	
売掛金	180		
受取手形	40		
商品	70		
短期貸付金	30		
有価証券	20		
その他	10		
固定資産200		固定負債180	
建物	100		
建物付属設備	20		
車輦運搬具	10		
機械装置	30	純資産90	
その他	40		
合 計	550	合 計	550



#### 【 自己査定後 】

流動資産245		流動負債280	
売掛金	140		
受取手形	30		
商品	50		
短期貸付金	0		
有価証券	15		
その他	10		
固定資産160		固定負債180	
建物	80		
建物付属設備	15		
車輦運搬具	5		
機械装置	20	純資産－55	
その他	40		
合 計	405	合 計	405

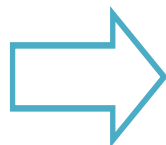


## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

### < 資産勘定科目の精査の内訳詳細 >

資産勘定科目		金額	資産勘定科目		金額	
減価償却対象資産	売掛金	180	売掛金	140		* 長期未回収の売掛金40有
	受取手形	40	受取手形	30		* 不渡手形10有
	商品	70	商品	50		* 不良在庫10有・架空在庫10有
	短期貸付金	30	短期貸付金	0		* 3年連続で同金額・実質0評価
	有価証券	20	有価証券	15		* 時価評価差損5有
	建物	100	建物	80		* 償却不足有 合計40
	建物付属設備	20	建物付属設備	15		
	車両運搬具	10	車両運搬具	5		
	機械装置	30	機械装置	20		
		500		355		* 500-355=145が純資産の金額から控除される

(実態把握)





## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

< 銀行員が注視する代表的な資産勘定科目 >

流動資産及び固定資産・繰延資産の項目一つ一つを実態ベースで引き直します



不良資産を差し引き、同額を自己資本から控除すると  
**実質債務超過**が見えてきます



## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

### < 流動資産の勘定科目の精査ポイント >

- ①現金が多額に計上されていないのか？
- ②定期預金や定期積金で担保提供されているのがあるのかどうか？
- ③売掛金が業界平均値より多く計上されていないのか？
- ④受取手形に不渡手形がないのか？不渡懸念の販売先が含まれていないのか？



## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

### < 流動資産の勘定科目の精査のポイント >

⑤在庫(商品・製品・半製品・仕掛品・原材料)が業界平均値より多く計上されていないのか？

⑥貸付金・仮払金・未収入金(未収利息)の推移状況は？



## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

### < 固定資産の勘定科目の精査ポイント >

- ①減価償却対象資産(建物・建物附属設備・車両運搬具・機械装置・工具器具備品)が法定償却されているのか？
- ②土地の含み損益がどうなっているのか？
- ③投資有価証券の含み損益状況はどうなっているのか？
- ④ゴルフ会員権やリゾート会員権は含み損益状況は？
- ⑤ソフトウェアは5年で法定償却されているのかどうか？



## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

### < 固定資産の勘定科目の精査ポイント >

⑥営業権は5年で法定償却されているのかどうか？

⑦保証金の実態はどうなっているか？

⑧保険積立金は？

⑨関係株式の実態は？

⑩出資金の実態は？



## 5. 銀行の決算書の解体の仕方を覚えよう！

### < 繰延資産の勘定科目の精査ポイント >

- ①創立費は5年で法定償却されているか？
- ②開業費は5年で法定償却されているか？
- ③開発費は5年で法定償却されているか？
- ④株式交付費は3年で法定償却をされているか？
- ⑤社債発行費は社債の償還期限内に償却されているか？



## 6. 格付けのランクアップをする方法

### < ポイント >

\* 販売先の見直しをして売掛金の回収スピードを速くしましょう。

\* 在庫管理をして不良在庫を無くしましょう。

\* 会社の私物化(貸付金・仮払金)を止めましょう。

\* 設備投資をする時には資金効果を考えて設備投資をする、または新規ではなく中古品で対応する、ケースによってはリースを利用するなどして資金効率をイメージしてください。



## 6. 格付けのランクアップをする方法

### < ポイント >

\* 資金の固定化(投資有価証券や貯蓄性の高い生命保険など)は極力しないようにしましょう。

\* 銀行から運転資金を利用する場合は、長期で利用するのではなく、短期継続融資を活用して無駄な元金や利息の支払いを減らすようにしましょう。

\* 決算書の勘定科目の表示の仕方を分かりやすくして銀行員から誤解をされないようにしましょう。

\* 簡易的な経営計画や資金繰り表を作成して定期的に銀行に自社の状況を報告しましょう。



## 7. 肝は財務資料の作成

---

( メモ用紙 )